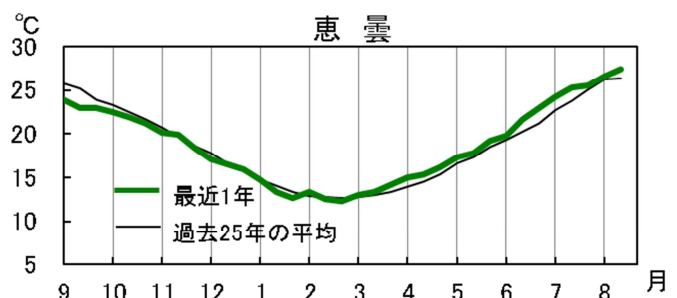
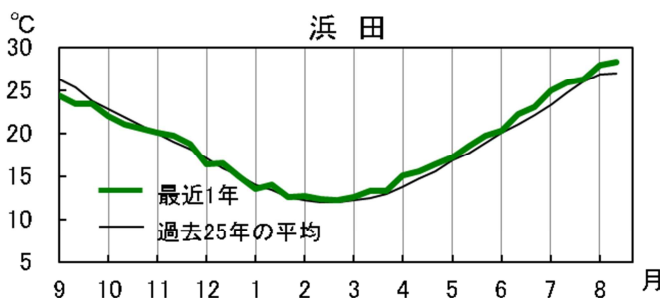




《7～8月の海況》

| 7月 | 月平均 | 平年差 | 評価 |
|----|-------|-------|------|
| 浜田 | 25.7℃ | +1.0℃ | やや高め |
| 恵曇 | 25.1℃ | +1.1℃ | やや高め |

沿岸定地水温は、浜田地区では、7月上旬は「かなり高め」、中旬は「やや高め」、下旬は「平年並み」となり、8月に入り上旬時点で「やや高め」で経過しています。恵曇地区では、7月上・中旬は「やや高め」、下旬は「平年並み」となり8月に入り上旬時点でも「平年並み」で経過しています。


 《7月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田地区ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は9.7トンで平年並みとなりました。魚種別の動向(総漁獲量)は、サバ類は124トンで平年の1.7倍となりましたが、マアジは140トンで6割程度となりました。隠岐地区ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は31.0トンで平年並みとなりました。魚種別の動向(総漁獲量)は、マアジは1,697トンで平年の6割程度となりました。サバ類は263トンで平年並みとなりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区(属地5トン以上)ではケンサキイカ(全体の94%)とスルメイカ(全体の6%)が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は55kgで平年を下回りました。一方、西郷地区(属人5トン以上)ではケンサキイカ(全体の34%)とスルメイカ(全体の66%)が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は51kgで平年並みでした。

【ばいかご漁業】

石見地区のばいかご漁業における総漁獲量は34トン、1隻1航海当りの漁獲量は881kgで平年を上回りました。また主漁獲対象であるエッチュウバイの漁獲量は28トン、1隻1航海当りの漁獲量は708kgで平年を上回りました。エッチュウバイの銘柄別では平年より「大」～「大中」銘柄の割合が高くなっています。

【しいら漬け漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は2.3トンと平年の1.9倍となりました。魚種別の動向(総漁獲量)は、シイラは110トンで平年の1.6倍、ヒラマサは6トンで1.3倍の漁獲量となりました。

【定置網漁業】

出雲地区ではマアジ、ホソトビウオ、サワラ類主体の漁況で、1統当りの漁獲量は13.6トンで平年を下回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、マアジは平年の7割、ホソトビウオは平年並の8割、サワラ類は平年の3割の漁獲量でした。石見地区ではヒラマサ、マアジ、カマス主体の漁況で、1統当りの漁獲量は12.0トンで平年を下回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、ヒラマサは平年の3.4倍、カマスは平年の3.2倍でしたが、マアジは平年の5割の漁獲量でした。隠岐地区ではマアジ、ブリ、ヒラマサ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は30.2トンで平年並みでした。魚種別の動向(総漁獲量)は、マアジは平年の1.4倍、ヒラマサは2.7倍で、ブリは平年並みの漁獲量となりました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は23kgで平年を上回りました。石見地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は15kgで平年を下回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、ケンサキイカ、キダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は17kgで平年を下回りました。

【平成 28 年 7 月の漁獲統計】

| 漁業種類 | 地区 | 主要魚種 | 総漁獲量 | | | CPUE(1 隻(統)1 航海当り漁獲量) | | | 漁模様 |
|-----------------|----|---------------------|---------|-------|-------|-----------------------|-------|-------|-----|
| | | | 漁獲量 | 前年比 % | 平年比 % | 漁獲量 | 前年比 % | 平年比 % | |
| 中型まき網 | 浜田 | マアジ、サバ類 | 271トン | 59% | 78% | 9.7トン | 53% | 91% | ○ |
| | 隠岐 | マアジ | 2,398トン | 39% | 55% | 14.4トン | 30% | 46% | ▲ |
| イカ釣り (5トン以上) | 浜田 | スルメイカ、ケンサキイカ | 2.4トン | 11% | 7% | 55kg | 43% | 35% | ▲ |
| | 西郷 | スルメイカ、ケンサキイカ | 4.5トン | 448% | 76% | 51kg | 209% | 119% | ○ |
| ばいかご | 石見 | エッチュウバイ | 34トン | 124% | 117% | 881kg | 127% | 125% | ◎ |
| しいら漬け | 石見 | シイラ | 117トン | 140% | 169% | 2.3トン | 137% | 192% | ◎ |
| 定置網 (大型) | 出雲 | マアジ、ホソビウオ、サワラ | 177トン | 37% | 53% | 13.6トン | 37% | 54% | ▲ |
| | 石見 | ヒラマサ、マアジ、カマス | 48トン | 62% | 66% | 12.0トン | 47% | 71% | ▲ |
| | 隠岐 | マアジ、ブリ、ヒラマサ | 90.5トン | 85% | 99% | 30.2トン | 85% | 99% | ○ |
| 釣り・縄 | 出雲 | ケンサキイカ | 60トン | 69% | 104% | 23kg | 86% | 112% | ◎ |
| | 石見 | ケンサキイカ | 44トン | 50% | 67% | 15kg | 63% | 81% | ▲ |
| | 隠岐 | カサゴ・メバル類、ケンサキイカ、キダイ | 21トン | 98% | 73% | 17kg | 98% | 89% | ▲ |

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

大型定置網漁業は 1 統当り漁獲量です。

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成 28 年 8 月 30 日

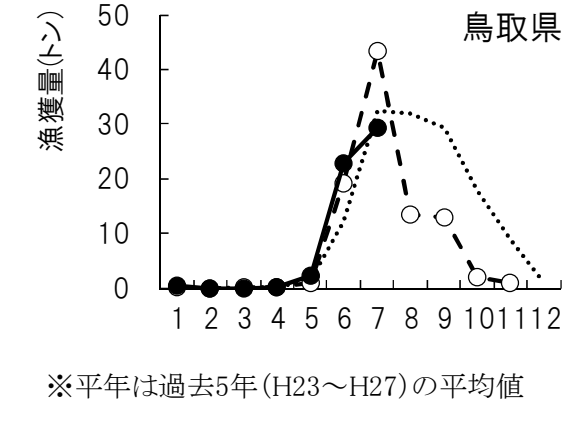
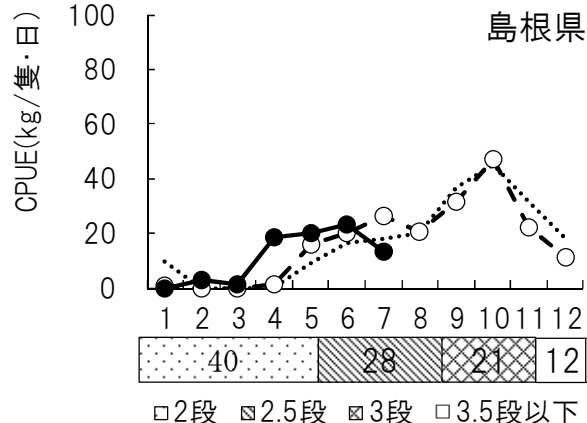
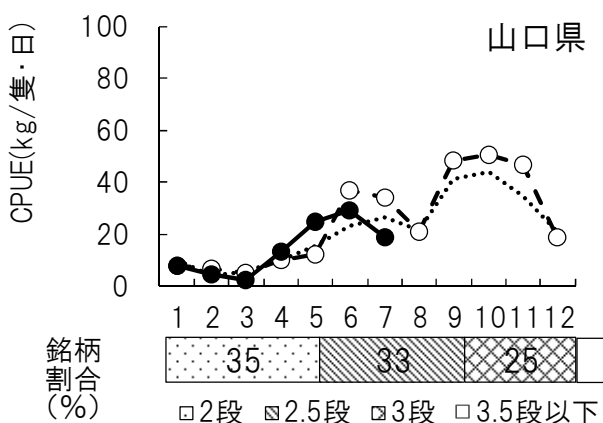
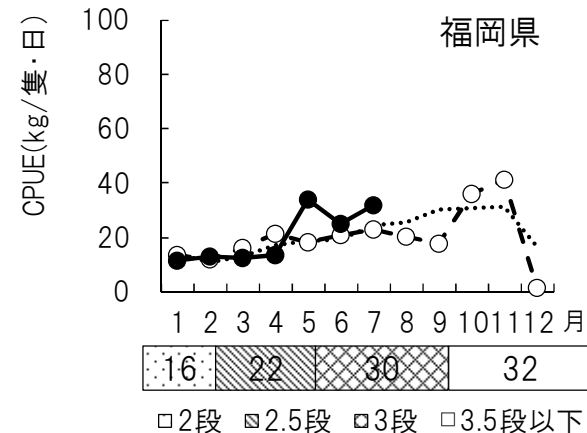
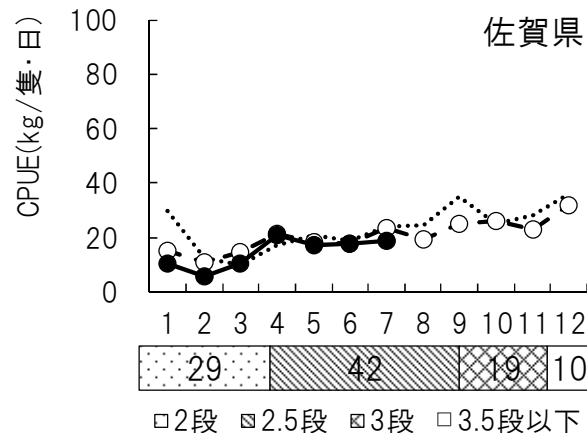
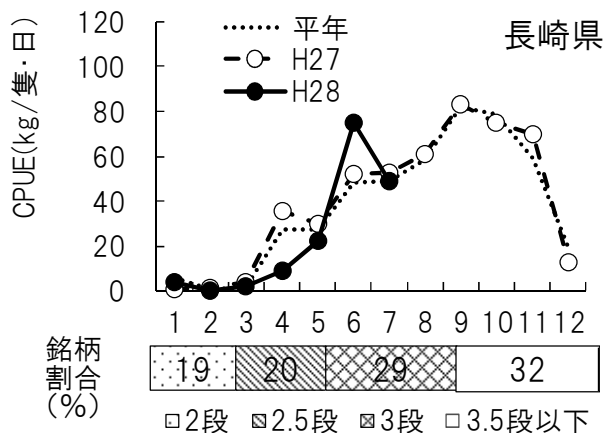
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：7月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県以外の県では平年を下回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

| | | | | | |
|-----|---|-----|--|-----|---|
| 長崎県 | 標本漁港の水揚げ量は、前年を上回り、平年並みでした(前年比141%、平年比99%)。 | 佐賀県 | 標本漁港の水揚げ量は、前年・平年を下回りました(前年比77%、平年比75%)。 | 福岡県 | 代表港の漁獲量は、前年比では前年を上回り、平年比では平年並みとなりました。(前年比120%、平年比106%)。 |
| 山口県 | 代表2地区の水揚げ量は、前年・平年を大きく下回りました(前年比31%、平年比39%)。 | 島根県 | 主要7港のケンサキイカの水揚げ量は30,140kgでした(前年比37%、平年比41%)。 | 鳥取県 | 7月までのケンサキイカの水揚げ量は前年並で、平年を上回りました(前年比92%、平年比128%)。 |



Ⅱ：8月上旬の底層水温

| | | | | | |
|-----|-----------------------------------|-----|--|-----|---|
| 長崎県 | 8月の五島西沖観測は行っていません。 | 佐賀県 | 底層水温について、壱岐水道は22～23℃で平年並み、対馬東水道は15℃～20℃で平年並みでした。 | 福岡県 | 沖合域の底層水温は15～18℃台と平年並み～やや高めとなっています。 |
| 山口県 | 底層水温は冷水域を除き、13～20℃台で平年並み～やや高めでした。 | 島根県 | 島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深80～150mが8.3～18.5℃、それ以深が3.2～3.5℃でした。 | 鳥取県 | 水深100m前後の底層水温は16℃前後で先月より1℃上昇しました。隠岐北方には暖水域が広がっており、鳥取県東部から兵庫県沖にかけての北緯37° 00′ 付近で冷水域が広がっています。 |

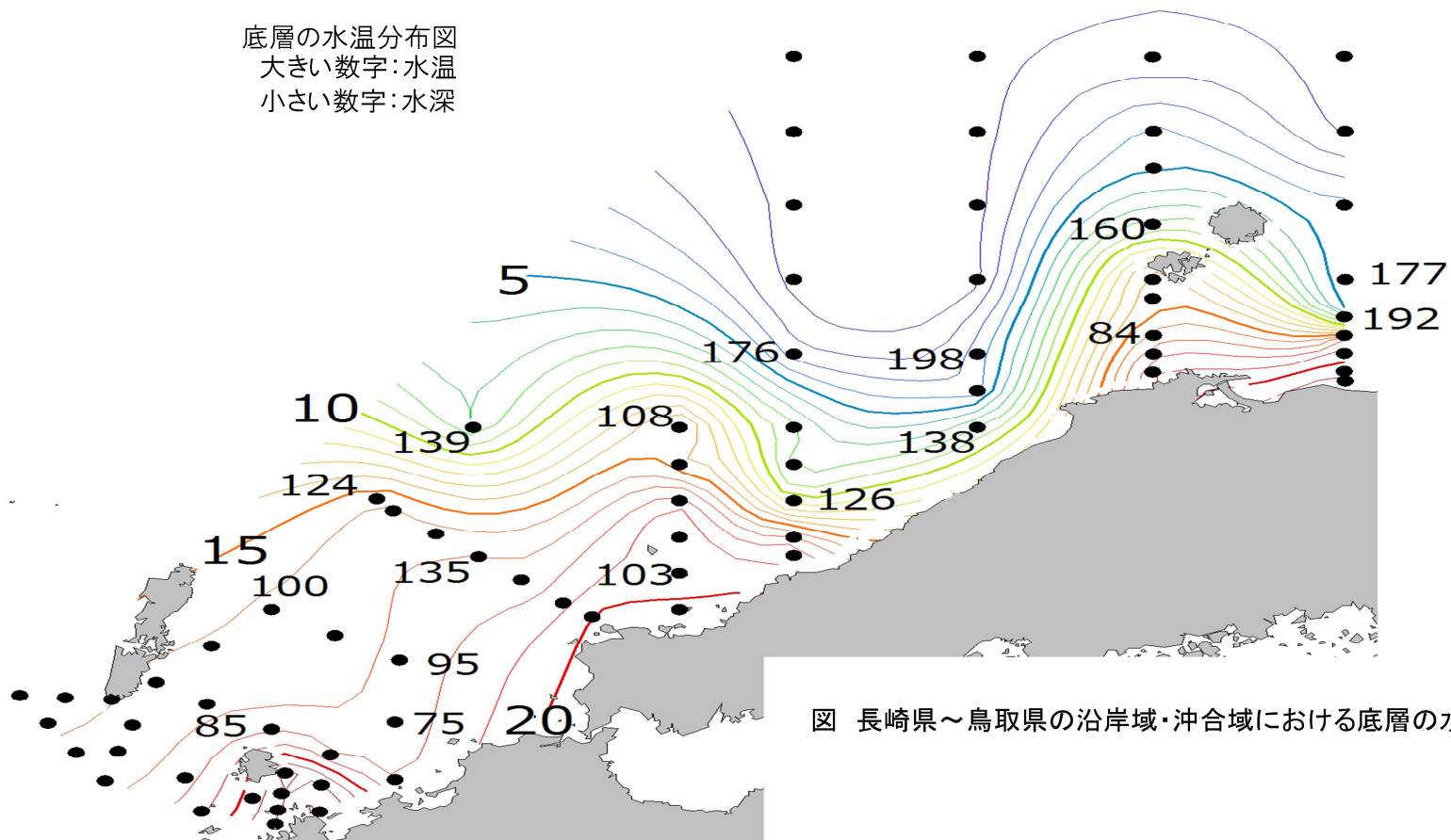


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図